

新潟県企業短期経済観測調査の概要

(業況感)

- **業況判断D.I.**は、「良い」超幅が縮小。
—— 製造業は「悪い」超に転化。非製造業は「良い」超幅が縮小した。

▽主な業種別の変化要因

		業種	主な要因
製造業	改善	木材・木製品、紙・パルプ、はん用・生産用・業務用機械	需要回復
	悪化	電気機械、輸送用機械、繊維	需要低迷 人手不足 値上げ効果の一巡
非製造業	改善	建設、情報通信、運輸・郵便、不動産	需要回復 大雪の影響 価格転嫁の進捗
	悪化	宿泊・飲食サービス、対個人サービス、卸売、電気・ガス	需要低迷 大雪の影響 価格転嫁の遅れ

- **先行き**については、「悪い」超に転化する見通しである。
—— 製造業は「悪い」超幅が拡大する見通し。非製造業は「良い」超幅が縮小する見通し。

(事業計画)

- 2024年度は、**売上高**、**経常利益**ともに前年を上回る見込みである。
—— 経常利益は、製造業では、コストアップなどから減益計画となっている。一方、非製造業では、価格転嫁の進捗などから増益計画となっている。
—— 経常利益を前回調査対比で見ると、製造業は価格転嫁の進捗や売上増加などから、非製造業は価格転嫁の進捗やコスト削減などから上方修正となった。
- 2025年度は、**売上高**が前年を上回る計画である。一方、**経常利益**は前年を下回る計画である。

—— 経常利益は、製造業、非製造業ともに、コストアップなどから、減益計画となっている。

- 2024 年度の設備投資は、前年を上回る見込みである。

—— 製造業は更新投資や能増投資、非製造業は営業拠点の拡大や能増投資などから、前年を上回る計画である。

—— 前回調査対比でみると、工期の遅れや先送りなどから製造業、非製造業ともに下方修正となった。

- 2025 年度の設備投資は、前年を下回る計画である。

—— 製造業では、能増投資や前年から繰り越された投資の実施などから前年を上回る計画である。一方、非製造業では、前年の大型投資の反動などから前年を下回る計画である。

(その他の判断項目)

- 販売価格判断D. I.、仕入価格判断D. I.は、「上昇」超幅が拡大した。
- 雇用人員判断D. I.は、前回調査並みの「不足」超幅となった。
- 資金繰り判断D. I.は、「楽である」超幅が縮小した。貸出態度判断D. I.は、「緩い」超幅が縮小した。借入金利水準判断D. I.は、「上昇」超幅が拡大した。

以 上